



【基本施策の目的】





幅広い世代が自主的に文化芸術活動に取り組める環境を整えるとともに、小牧固有の歴史や文化、伝統にふれあう機会を充実します。




【基本施策の今後の優先度】

中	基本施策の指標値は基本的に横ばいであるものの、文化事業の実施主体が市からこまき市民文化財団に移行したが、本市も関与しながら専門性と柔軟な体制のもと、現状の取り組みを維持しながら文化振興に取り組む予定である。 しかし、当面は現状の取り組みをしっかりと進めていく予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、「中」と判断した。
---	--

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応
日頃から文化芸術に親しんでいる市民の割合	%	実績	49.9	45.3	47.8	55.2	自主文化事業や市民美術展、鑑賞講座など文化芸術に親しめる催しを開催した。文化芸術に親しんでいる市民の割合は、増加傾向にあるものの、30代、40代の割合が低くなっている。 子育て世代を対象とした事業や親子で文化芸術に親しむことができる事業の企画などを実施し、引き続き、文化に関心のない層の取り込みを行う。	文化事業の実施主体を市からこまき市民文化財団へ移行し、専門性と柔軟な体制のもと事業を進める体制を構築する。 アウトリーチやワークショップなどの手法を活用するなど、参加しやすい事業を検討していく。また、周知方法においても、ホームページやフェイスブック、ツイッター、メディアなどを活用し、幅広い年代に情報を発信していく。
		目指す方向性						
小牧の歴史・文化に興味・関心を持っている市民の割合	%	実績	63.1	60.5	60.0	57.7	市民意識調査の結果から、概ね60歳未満の方の小牧の歴史・文化への興味・関心の低下が見られた。職業的にも高齢者が中心と思われる無職の方の興味・関心が高い傾向にある。平成25年の小牧山城築城450年事業が終了し、幅広い世代が小牧山に触れる機会が減少したことにより、実績値は年々低下しているものと考ええる。 このため、60歳未満の方々への情報発信を行っていくことにより、今後割合は上昇するものと考ええる。	書籍・パンフレットや講座・子ども向けのこまき検定の開催、ホームページ・フェイスブックによる情報発信等、様々な手段を通じて、60歳未満の方々を中心に小牧の歴史・文化に親しんでもらい、興味・関心を持っていただく。 特に、小中学生を含む若年層への郷土愛の啓発が必要と考える。
		目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
1 市民が文化芸術に親しめる機会を充実します	市主催の文化芸術イベントへの来場者数	人	実績	32,331	33,357	39,690	37,077	宝くじ文化公演事業、第九演奏会の皆減により、来場者数が減少した。自主文化事業の入場者数は企画の内容に左右されるため、年度によって来場者数に変動があるが、比較的高い年齢層の参加が多いため、若い世代の取り込みが課題である。	こまき市民文化財団とともに魅力ある事業の実施に向けて連携協力し、市民の興味・関心の傾向を調査して、既存の事業内容の見直しを図る。 また、鑑賞型の公演だけでなく、広く市民が参加できるイベントを企画し、新しい来場者の獲得を図るとともに、U25チケットの設定など若い世代にアプローチを行う。
		目指す方向性							
	来場者の満足度	%	実績	96.2 (H24年度)	95.5	97.1	97.5	事業ごとに来場者アンケートを実施している。概ね満足の結果を得ており、昨年度に比べて実績値は上昇している。	アンケートによって具体的なニーズを調査し、他の事業や次年度の企画に生かすこととともに、新しいジャンルにも挑戦し、来場者がより質の高い満足感を得られ、文化芸術に関心をもってもらえるように事業内容を検討する。
		目指す方向性							
2 団体の自主的な文化芸術活動を支援します	支援を行った文化芸術団体の事業参加者数	人	実績	35,804	37,603	44,102	47,509	小牧市文芸祭及び中部フィルの事業を新規で共催したため、支援事業の参加者数が増加した。	こまき市民文化財団と連携協力して各種団体の支援体制を構築する。 また、市・教育委員会として事業の後援や広報等におけるバックアップを行い、文化団体の自主的活動の活性化を支援する。
			目指す方向性						
	こどもまたは親子で参加する文化体験教室などの参加者数	人	実績	300	509	546	806	メナード美術館と連携した子ども向けワークショップを新たに実施し、参加者の増加につながった。	こまき市民文化財団と連携協力し、こどもの頃から文化に触れる機会を提供していく。 また、文化協会等と連携し、引き続き伝統文化等のワークショップなどを実施する。
			目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
3 小牧固有の歴史・文化遺産を保全・活用します	指定文化財の数	件	実績	40	40	41	41	新規に指定する文化財がなかったため、前年度と同数となった。文化財保護審議会において、文化財の調査等を行っているところであり、今後も微増及び同数を推移すると考えられる。	引き続き、貴重な文化財が発見等されれば、指定に向けて手続きを進める。
			目指す方向性						
	小牧市のシンボルが小牧山と思う市民の割合	%	実績	87.5	79.6	89.2	87.9	市民意識調査の結果、70歳未満のすべての世代で割合が低下している。一方で、70歳以上(生まれた時から小牧に在住しているとされる)市民の割合は上昇している。今後、様々な手段を通じて幅広い年代層へ情報発信していくことにより、割合は上昇するものと思われる。	発掘調査で得られた歴史的価値や魅力を中心に小牧山について、様々な手段を通じて幅広い年齢層へ周知する。特に、小中学生を含む若年層への周知手段・方法について今後検討していく必要がある。
			目指す方向性						
	歴史・文化講座の参加者数	人	実績	3,226 (H25年度)	2,687	2,645	2,715	市民意識調査の結果から、概ね60歳未満の方の小牧の歴史・文化への興味・関心の低下が見られた。職業的にも高齢者が中心と思われる無職の方の興味・関心が高い傾向にある。参加者は高齢者を中心に毎年参加するリピーターが多いことから、学生や小中学生を対象とした講座を開催することにより、参加者数は増加するものと考えられる。	引き続き、市民が市内の文化財や歴史について関心や親しみを持てるように、小牧市の歴史等に関する講座を開催する。特に学生や子どもを対象とした講座を開催し、新たな受講者を増やしていく。
			目指す方向性						

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向1	<p>美術振興事業、音楽振興事業、小牧山文化事業については、展開方向の目的を達成するために継続して実施する必要があるため、基本的には維持の考え方である。</p> <p>美術振興事業、音楽振興事業については、来年度からこまき市民文化財団が実施主体となり、事業の内容や手法について検討をしていく。より市民が参加しやすい工夫をする必要があり、経費についても削減できる場所は見直しを行っていく。</p>
		展開方向2	<p>一文化団体育成事業については、今後、こまき市民文化財団が中心となって各種文化団体と連携していく。引き続きの予算確保は必要であると考える。しかし、音楽振興事業について、事業の内容を見直し、事業費の一部を削減する。</p>
		展開方向3	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財環境整備事業については、文化財の周知を図るためには必要な事業であり、今後も必要に応じて案内看板の新設や修繕を行っていく。 ・文化財啓発事業については、平成29年度については、愛知文教大学へ委託し実施している講座の内容や回数を見直し、前年度から5,000千円減額した。なお、これらの講座の参加者数を展開方向の進捗状況を示す指標として設定しているが、実績値は講座等の開催回数や種類、募集人員(規模)によって左右されるため、次期総合計画では指標の削除を行う。 ・歴史館施設管理事業については、小牧市の歴史や文化を紹介する市内唯一の施設であり、これまで通り企画展を開催することにより、小牧山とともに小牧の歴史・文化の情報発信拠点として活用していく。 ・歴史館施設管理事業のうち、指定管理者へ委託して行う企画展示業務委託料(歴史館管理運営委託料に含む)の内容を精査し、事業費の一部金額の削減を行う。
実施計画事業	資源投入の考え方	展開方向1	<p>小牧市教育大綱及び教育振興基本計画等に掲げる目標の達成に向けて、各種事業を展開していく必要がある。文化事業の実施主体を市からこまき市民文化財団へ移行し、専門性と柔軟な体制のもと事業を進める体制を構築する。市民参加による事業の実施をはじめ、文化を身近なものに感じてもらうために、幅広いジャンルにわたって事業を実施する。また、県との連携事業の企画や補助金等の活用など限られた資源投入の中で、より魅力的な事業を実施できる手法を検討する。</p>
		展開方向2	<p>経常事業を引き続きしっかりと進めていく。</p>
		展開方向3	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡小牧山整備事業は、平成29年度以降、(仮称)史跡センター周辺整備工事や新管理道の建設工事、山頂部主郭地区の整備工事等が予定されている。史跡小牧山の整備を行っていくことにより、小牧固有の歴史資産である小牧山の保全・活用につながっていくことから、資源投入は増加する必要があると考える。 ・(仮称)史跡センター整備事業は、平成28年度の実施設計作成をもって完了することから、資源投入も終了する。しかしながら、今後(仮称)史跡センター整備事業に代わり、史跡センター施設建設事業を行っていくことから、実施計画事業のボリュームは拡大していくものと考ええる。